

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.7

みんなの思いをことばにしよう！つなげよう！
～個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用～



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



みんなの思いを「ことば」にしよう！つなげよう！

個別の教育支援計画は、家庭や地域、医療や福祉等の関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行うための計画です。連携のためのツールとして活用しましょう。

個別の指導計画は、各教科等の指導に当たって、障害の状態や発達の段階等を把握し、その実態に即した指導の目標や内容、指導方法等を示した計画です。教育課程を踏まえ、個別の指導計画を作成し、各教科等の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、適切かつ、きめ細やかに指導することで指導の充実を目指しましょう。

- ◆「Aさんの今の様子」や「Aさんが大切にしていること」、「Aさんは、将来こうなりたいと思っている」など、みんなの思いを「ことば」にしましょう。
- ◆Aさんや保護者と十分に対話し、その思いをつなげ、次の場に思いを託すことも大切にしましょう。

個別の教育支援計画と個別の指導計画の特徴

個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成する際にも、支援を必要とする子供と他の子供との差異を「弱み」として捉え、「弱み」に着目して支えるという視点に注目していませんか。支援を必要とする子供がもっている「長所・強み」に着目し、可能性を引き出し、本人がもっている力を発揮させていく視点（エンパワメント）を取り入れることが大切です。

個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成する際には、子供たちがもっている「長所・強み」を大事にしながら、将来に向けた計画を立て、実践に結び付けていくことが大切です。そのためにも本人、保護者と十分に対話を重ね、本人、保護者の思いや願いを個別の教育支援計画や個別の指導計画に反映させていきましょう。

・個別の教育支援計画は、家庭や地域、医療や福祉等の関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行うための計画です。

・個別の指導計画は、各教科等の指導に当たって、個々の子供の障害の状態や発達の段階等を把握し、その実態に即した指導の目標や内容、指導方法等を示した計画です。



個別の教育支援計画も個別の指導計画もAさんにとって、大事なものです。その違いを念頭に置きながら作成し、活用していきましょう。

個別の教育支援計画で大切にすること

教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、支援を必要とする子供の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における子供の望ましい成長を促すことを目指したものが個別の支援計画です。

この個別の支援計画のうち、子供に対して、教育機関が中心となって作成するものを、個別の教育支援計画といいます。支援を必要とする子供は、学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活を含め、長期的な視点で幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要です。

また、医療、保健、福祉、教育、労働等の各機関が、それぞれ適切な支援を行い、一貫した支援ができるよう、障害や発達に関する総合的な評価、各種の相談・支援の内容とそれによる効果、本人や保護者のニーズ等を記録する相談・支援のための手帳やファイル「相談・支援手帳（ファイル）」と連動させることも大切です。



- 個別の教育支援計画では、「目指す A さんの姿」や「A さんに育てたい力」を確認しましょう。
- 合理的配慮を明らかにすることも大切です。
(合理的配慮については、「特別支援教育リーフ Vol.6」を参考にしてください)

個別の指導計画で大切にすること

個別の指導計画では、次のことに配慮します。

- ① 子供の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進度等を考慮して、基礎的・基本的な事項に重点を置くこと
- ② 子供が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、それぞれの子供に作成した個別の指導計画や学校の実態に応じて、指導方法や指導体制の工夫改善に努めること
 - 子供の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、学習の進度等を考慮して、個別指導を重視するとともに、グループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた学習を取り入れること
 - 子供の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れること
 - 教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること
 - 情報手段や教材・教具の活用を図ること等が挙げられます。

- A さんの実態把握に努めましょう。
- A さんの実態を踏まえた上で、指導方法や指導体制を工夫しましょう。



☆さらなる理解のために☆

「ことば」で校内をつなげよう！校外にもつなげよう！

支援を必要とする子供一人一人に応じた適切な指導を充実させるためには、各学校や学びの場で編成されている教育課程を踏まえ、個別の指導計画を作成し、各教科等の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、適切かつ、きめ細やかに指導することが必要であり、そのためには、校内での共通理解が重要です。

また、個別の教育支援計画は、就学前の支援を引き継ぎ、教育相談の過程を経て作成され、新たな就学先における支援の内容の充実を図るものです。個別の教育支援計画作成後は、本人及び保護者の了解を得た上で、着実に就学先に引き継がれていくことが重要です。

加えて、各学校や地方公共団体において定めている個別の教育支援計画の様式を、可能な限り域内においてより標準化し、活用していきましょう。担任が転勤して学校等が変わった場合でも、教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容が共有され、切れ目なく確実に引き継がれるよう努めていくことが重要です。

小中学校等の特別支援学級や通級による指導で様々な指導を受けていた生徒が、高等学校において指導を受けるに当たって、小中学校等での指導や合理的配慮の状況などが十分引き継がれていないとの状況が散見されます。そのような状況を改善するために個別の教育支援計画やこれまで各地域で共有されてきた関連資料を活用し、小中学校等での指導を高等学校での指導につなげていくことが重要です。

<参考情報>

[○文部科学省 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（2021年発行）](#)



個別の教育支援計画と個別の指導計画について、その考え方や活用方法について記載されています。ぜひ確認してください。

[○文部科学省 障害のある子どものための地域における相談支援体制整備ガイドライン（試案）（2008年発行）](#)



「相談・支援手帳（ファイル）」について、その考え方や活用方法について記載されています。

[○文部科学省 教育振興基本計画（2023年発行）](#)



「長所・強み」に着目し、可能性を引き出して発揮させていく視点（エンパワメント）の重要性が明記されています。この機会に内容を確認してください。

[○国立特別支援教育総合研究所 NISE 学びラボ「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」（2023年現在）](#)



★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803（代表）

初版発行 令和5年10月